



第 60 回日本形成外科 学会総会・学術集会を 開催して

— 還暦を迎えた日本形成外科学会 —

細川 互 第 60 回日本形成外科学会会長
大阪大学大学院医学系研究科形成外科学

The Japanese Journal of Plastic
Surgery, Vol. 60, No. 9, 2017
形 成 外 科
第 60 卷 第 9 号 別 刷
克 誠 堂 出 版 株 式 会 社



第60回日本形成外科学会総会・学術集会を開催して

— 還暦を迎えた日本形成外科学会 —

細川 互 第60回日本形成外科学会会長
大阪大学大学院医学系研究科形成外科学

KEY WORDS 日本形成外科学会 米国形成外科学会 韓国形成外科学会

2017年4月12～14日に大阪国際会議場で第60回日本形成外科学会総会・学術集会を開催させていただきました。今回はちょうど60回の節目ということで「形成外科学の還暦を祭る」と銘打ち、お祭りの祝賀学会といたしました。

この数年、日本形成外科学会は海外学会との結びつきを深め、特に米国形成外科学会および韓国形成外科学会とはそれぞれMOU(覚書)を結んだところです。今回の学術集会では、その両形成外科学会から、それぞれに現理事長(Debra J Johnson先生, Dae Hyun Lew先生)と前理事長(David H Song先生, Byung Chae Cho先生)を招聘し、その4名すべての先生方に招待講演をお願いしました。さらにその4名に日本形成外科学会の理事長であった私が加わり、波利井清紀先生とHak Chang先生との共同司会によるinternational forumを開催し、各国における形成外科の現状・未来、問題点等について大局的な討論を行いました。このinternational forumでは、米国や韓国においても日本と同様に、学会の正式な専門医過程を経ない「も

ぐり専門医」の問題や美容外科に関する諸問題等、たくさん抱えていることが浮き彫りになりました。しかし、学会理事長が女性である米国においてもなお、女性医師の昇進等について障害があるというJohnson理事長の発言は私には意外でした。

また、Johnson理事長による招待講演は「A SWOT Analysis of Plastic Surgery」という演題で、今後の形成外科発展戦略を考えるうえで実に重要な内容でしたので、私はこの講演内容を記録として残すべきであると考えました。Johnson理事長の了解を得、また米国形成外科学会事務局に翻訳もしていただいたうえでその講演全文を和文で日形会誌に掲載していただきましたので、是非お読みいただきたいと思っております¹⁾。

理事長講演というものはおそらく60回の学会の歴史の中でこれまでなかったものだと思いますが、今回特別に企画しました。スライド映写をすることもなく、約30分間にわたって形成外科に対する私の思いを述べさせていただきました。この講演内容についても日形会誌に掲載されましたのでお読みいただ

ければ幸いです²⁾。

特別講演は澤芳樹日本再生医療学会理事長による「再生医療の現状と未来」、文化講演は落語家桂文珍師匠による「落語的学問のすすめ」および能面師中村光江氏による「能面のおはなし」であり、いずれも形成外科学を離れて教養科目としてお話いただきました。いずれの講演にもたくさんの聴衆がお集まり下さり、それぞれの道での名人達人の話をお楽しみいただけたと思います。

学会中日の夜に催された還暦記念祝賀パーティーには、日本医学会の高久史磨会長がご高齢にもかかわらず自らご出席下さりご祝辞を下さいましたし、吉本新喜劇による余興等もあり、大変多くの方がご参加下さいました。

また、学会期間中、米国形成外科学会とりそなカード社にデスクを設けてもらい、米国形成外科学会への入会手続きや、日本形成外科学会会員カードの作成手続きをその場でできるようにしました。学会終了後に米国形成外科学会事務局に訊きましたところ、この期間中に米国形成外科学会の日本人会員数は倍増したとのことでした。また、会員カードの手続きをされた方も多く、利便性が高かったようですので、この2つのデスクは次回の博多学会でも置かれるものと思います。

さて、私は昨年の米国形成外科学会での講演の後に米国形成外科学会評議会から名誉会員に推挙されましたが、この4月の学術集会の役員評議員懇親会の折りに米国形成外科学会理事長Debra J Johnson女史から名誉会員証を贈呈されました(図)。

結局、この第60回日本形成外科学会の有料参加者数は3,146人、無料招待者を加えれば3,200人を大きく超える規模の学術集会で



図 招待講演者で米国形成外科学会理事長のDebra J Johnson先生と(2017年4月11日の役員評議員懇親会の席上で)

した。また、企業展示では196小間が出展され、ランチョンセミナー等の共催セミナーは26社が開催、学術集会の総収入も含めて、いずれも過去最高を更新しました。学会期間中はほぼ天気も良好で、今年の大阪の桜の満開時期ともほぼ重なりました。

開催にご協力下さった日本形成外科学会員と企業の皆様方、当教室同門会員・医局員、日本コンベンションサービス社、そしてお天気を含めた自然からの恵みに厚く御礼を申し上げます。

●引用文献

- 1) Debra J Johnson: 形成外科におけるSWOT分析について. 日形会誌 37: 359-364, 2017
- 2) 細川互: 形成外科の今後を考える. 日形会誌 37: 355-358, 2017